

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第7号

第7週(2月9日~2月15日)

発行年月日:平成16年(2004年)2月23日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

\* 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律が平成15年11月5日から施行されました。

### 1) 全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (7週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀	全国	滋賀	全国 <sup>(*)</sup>
			(7週)	(7週)	(7週)	(7週)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	1	36	7	459
	パラチフス	0	0	2	0	38
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	43	8	2635
4類感染症	エキノコックス症	0	0	7	0	17
	オウム病	0	0	4	1	44
	ツツガムシ病	0	0	38	1	380
	レジオネラ症	0	0	13	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	1	53	3	504
	ウイルス性肝炎	0	0	28	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	21	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	4	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	0	81	8	949
	梅毒	0	1	62	2	493
	破傷風	0	0	6	1	69
	急性脳炎	0	0	0	0	98

(\*1) 平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

### 2) 定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	32.53	38.27	41.10	31.00	24.38	23.00	29.20	36.00	
RSウイルス感染症	0.06	0	0.33	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.06	0	0.17	0	0.20	0	0	0	
A群溶連菌咽頭炎	1.82	0.29	2.33	1.25	5.60	1.25	0.20	2.50	
感染性胃腸炎	3.24	5.71	6.50	4.50	0.60	1.50	0.20	0	
水痘	1.18	1.57	1.00	1.75	0.80	1.75	0.80	0	
手足口病	0.06	0	0	0	0	0	0	1.00	
伝染性紅斑	0.21	0	0.83	0	0	0	0.20	0.50	
突発性発疹	0.39	1.14	0	0.25	0.40	0	0.40	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.36	0.43	0.83	0	0.40	0	0.40	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.57	1.00	0	1.00	0	1.00	1.00	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.71	0	0	0	0	0	5.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26 28 30 32 34 36 38  
定点当たり患者数

### 3) 今週のトピックス

#### A群溶連菌咽頭炎の発生は急増

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(2月2日～2月8日)の報告数よりやや減少していますがインフルエンザの報告数は先週にひきつづき多い状態です。また、疾患別ではA群溶連菌咽頭炎、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、マイコプラズマ肺炎等の定点当たり患者数は増加していますが、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、突発性発疹等の定点当たり患者数は減少しています。

**インフルエンザ**については、先週の定点当たり患者数 33.37より減少し32.53となっています。**大津、草津、水口八日市、今津**保健所管内においては先週にひきつづき多く発生しています。また、長浜保健所管内の定点当たり患者数は先週の21.20より多くなり29.20となっています。今後もインフルエンザの予防についての十分な注意が必要です。

#### インフルエンザに対する一般的な注意

- 1.外出時には、マスクを使用する。
- 2.帰宅時には手洗いとうがいを心がける。
- 3.睡眠を十分にとり、栄養に気を配る。
- 4.室内を適度な湿度に保つ。
- 5.人混みに出かけることをなるべく避ける。
- 6.早めに医療機関を受診する(受診する際には、マスクを着用する)。

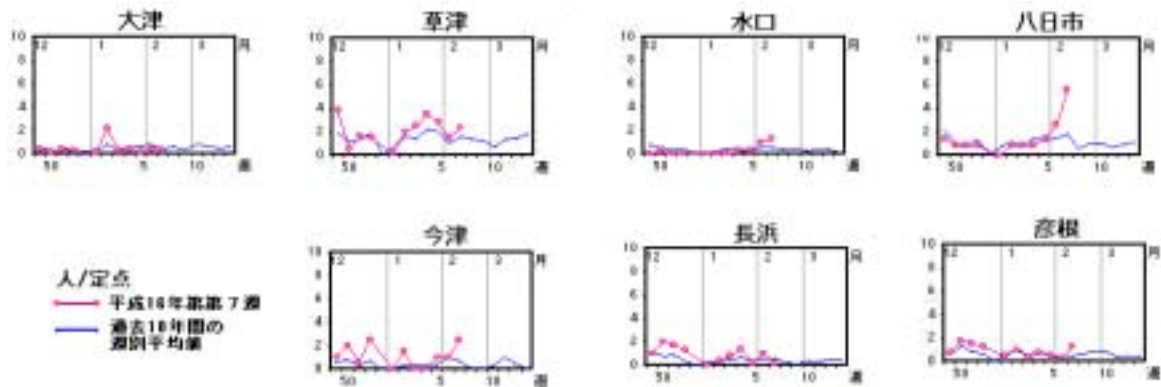
**A群溶連菌咽頭炎**については、先週の定点当たり患者数 1.12より増加し1.82となっており、昨年の同時期の定点当たり患者数 0.25よりかなり多くなっています。特に、**八日市**保健所管内では5.60となっています。

**感染性胃腸炎**については、先週の定点当たり患者数 5.15より減少し3.24となっています。

**マイコプラズマ肺炎**については、長浜保健所管内において増加し、定点当たり患者数は5.00となっています。

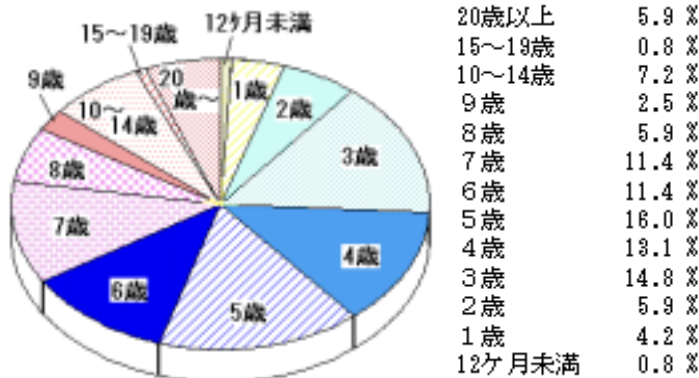
A群溶連菌咽頭炎の保健所管内別発生状況および年齢別発生状況は下記のグラフのとおりです。

#### A群溶連菌咽頭炎の保健所管内別発生状況(平成16年第7週)



平成16年第7週の各保健所管内の定点当たり患者数を過去10年間の週別平均値と比較すると、大部分の保健所管内において平均値より多くなっています。特に、八日市および今津保健所管内におけるA群溶連菌咽頭炎の発生が多くなっています。

#### A群溶連菌咽頭炎の年齢別発生状況(平成16年第1週～平成16年第7週)

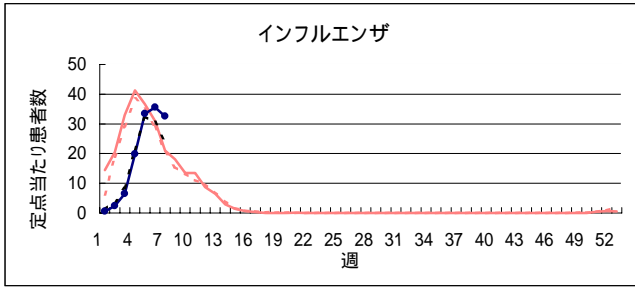


#### < A群溶連菌咽頭炎のミニ知識 >

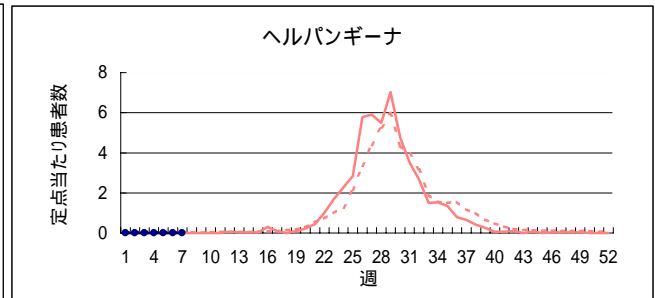
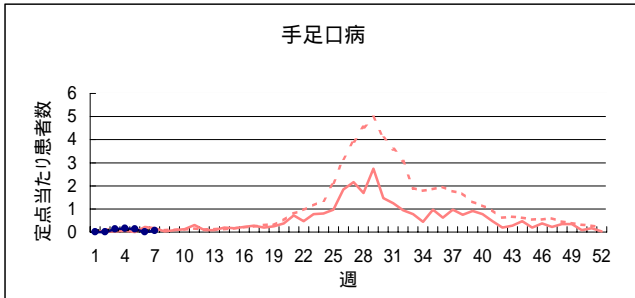
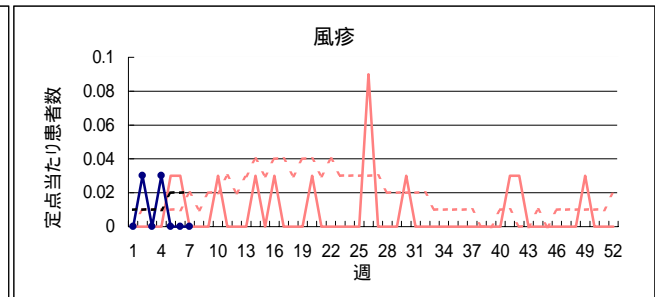
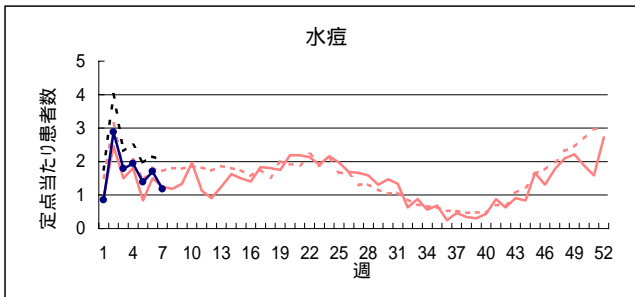
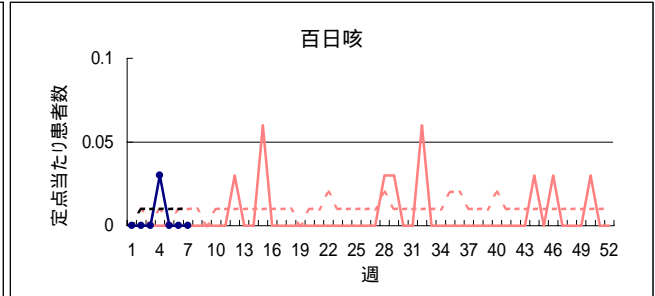
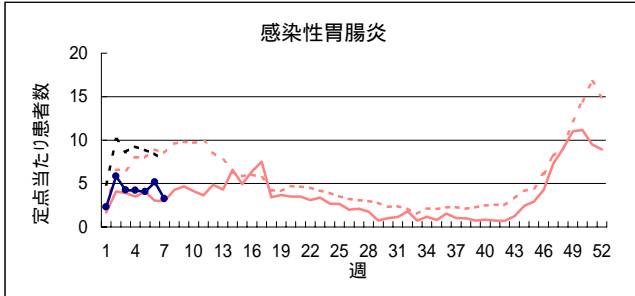
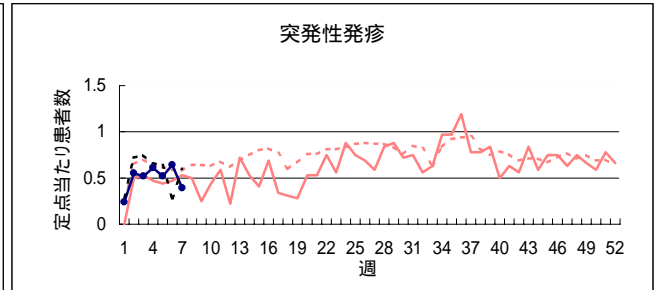
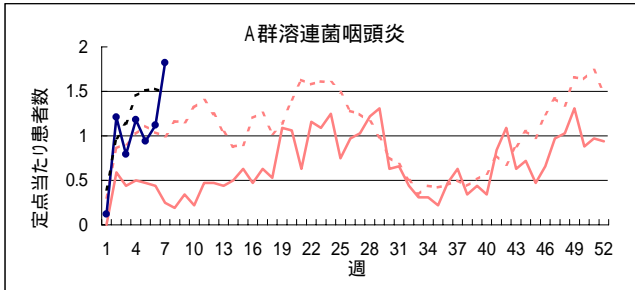
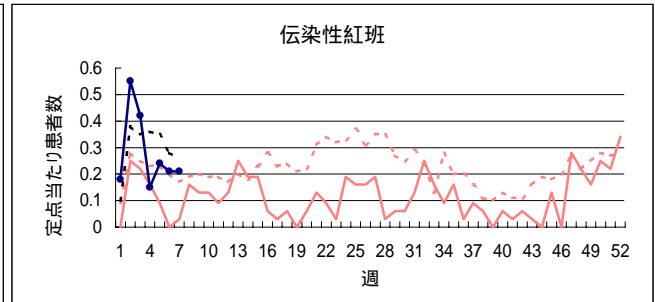
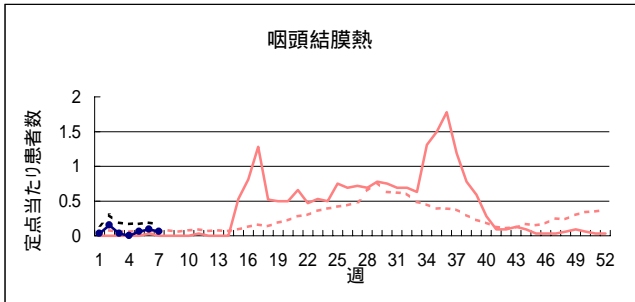
A群溶血性連鎖球菌に感染することにより起こる疾患で、乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎を起こします。特殊な場合には、猩紅熱といわれる全身症状を示すこともあります。また、不十分な治療で放置すると急性糸球体腎炎を起こすこともあります。

- ・感染様式: 飛沫感染
- ・潜伏期: 2～5日
- ・臨床症状: 突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、発疹、嘔吐
- ・治療: 抗生剤の服用
- ・予防: 患者との濃厚接触を避ける、うがい、手洗い
- ・登校、登園のめやす: 熱がさがり、発疹が消失した後

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第7週)



H15 { 滋賀 ————  
       全国 .....  
 H16 { 滋賀 ●——●  
       全国 .....  
       .....



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第7週)

H15 [ 滋賀 ———— 全国 ..... ] H16 [ 滋賀 ●——● 全国 ..... ]

